

平成 24 年度大学評価フォーラム機構内研究会

日 時: 平成 24 年 7 月 20 日 (金) 17:00 ~ 18:00

場 所: 学術総合センター 11 階 竹橋オフィス 1112 会議室

招へい講師: Dr. Staci Provezis 氏 (全米学習成果アセスメント研究所 (National Institute for Learning Outcomes Assessment: NILOA) 研究員 (兼イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校広報・評価担当上級コーディネーター))

<開催趣旨>

当機構では平成 24 年 7 月 20 日 (金) に全米学習成果アセスメント研究所 (NILOA) 研究員 (兼イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校広報・評価担当上級コーディネーター) である Staci Provezis 氏を招いて、研究会を開催しました。

NILOA は、キャンパスアセスメントへの取組に関するウェブ・ベースの調査、機関のウェブサイトおよび評価関連の取組に従事する組織のウェブサイトの分析、大学の学習アセスメントにおける事例の研究を行う機関です。

同氏は、NILOA において、学習成果アセスメントに関する調査研究プロジェクトを多数手がけ、全米の大学の動向について幅広い知見をお持ちであり、これらの経験をもとに、NILOA 組織設立の背景、目的・使命、活動内容、調査報告書やリソースの紹介、全米内の活動インパクト等について講演いただきました。

<講演概要>

●NILOA について

2006 年の「スペリングス報告書^{*}」で学習成果の評価と社会に対する説明責任の重要性が提言され、高等教育の価値が 2009 年の高等教育法改正に向けて議論される中、2008 年、①学習成果アセスメントに関する調査分析、②学習成果アセスメントに関する大学支援 (主にウェブによる情報提供) を目的として NILOA が設立された。連邦政府からの資金は受けておらず、現在、ルミナ財団 (Lumina Foundation for Education) およびティートル財団 (The Teagle Foundation) から資金提供を受けている。

^{*}: 高等教育の将来に関する連邦教育長官諮問委員会が 2006 年に発表した報告書『リーダーシップが試される時—米国高等教育の将来像を描く— (A Test of Leadership-Charting the Future of U.S. Higher Education)』

●NILOA の主な業務

<学習成果アセスメントに関する調査分析>

- ・ 学習成果アセスメント活動および情報発信への取組に関する全米の大学を対象とした調査分析
- ・ アセスメント活動に関する大学の事例研究等

<学習成果アセスメントに関する大学支援 (主にウェブによる情報提供) >

- ・ 学習成果アセスメントに関する調査報告
- ・ 優れた取組事例の紹介
- ・ 学習成果に関するウェブ構築を支援するツールの紹介

●NILOA のウェブサイト

大学の学習成果アセスメントへの取組を支援するための情報を提供し、100 に及ぶ国と地域からの毎月のアクセス数は5,000 に達している。

・ 大学ウェブサイトの紹介

- ① 提供される情報、②創造性、③学習成果アセスメント情報の一元管理、を基準に、学習成果の情報提供に関する優れた大学ウェブサイトを毎月1件選び、その大学を「Featured Website」としてNILOAのウェブサイトで取り上げている。

(URL : <http://www.learningoutcomeassessment.org/FeaturedWebsiteCurrent.html>)

・ 学習成果に関するウェブ構築を支援するツール (Transparency Framework) の紹介
閲覧者が容易に学習成果に関する情報にアクセスできる大学ウェブサイトの構築支援を目的とし、約1,000大学のウェブサイトの調査・研究を経て、Transparency Frameworkを作成し、公開している。

(URL : <http://www.learningoutcomeassessment.org/TransparencyFramework.htm>)

Transparency Frameworkにて推奨される大学評価アセスメントに関する大学情報発信項目は次のとおり。①学生の学習成果目標、②学習成果アセスメント計画、③教職員向けのアセスメントリソース、④学習成果アセスメントの実施情報、⑤学習成果の結果、⑥学習成果の結果の活用

●学習成果アセスメントに関する調査報告書について

全米の大学を対象とした最近10年間の学習成果アセスメントについての主な調査報告書の概要は以下のとおり。

- ・ 機関およびプログラムレベルで実施されている学習成果アセスメントに関する調査結果
- ・ 大学のウェブサイトの分析、および学習成果アセスメントの結果と各大学がどのように結果を活用しているかに焦点を当てた調査結果
- ・ 全米会議で実施した学長、学部長等への聞き取り調査
- ・ 9機関のケーススタディに基づく学習成果アセスメントの取組に関するグッドプラクティスの報告
 - ① 学習成果アセスメントに関する特定課題の抽出
学習成果の結果が学生の学習および教員の関与に活かされている。
 - ② 外部評価の活用
外部評価が大学のアセスメント活動に活用されている。
 - ③ 全学的な学習成果アセスメントの取組
学習成果アセスメントについて、学内会議における議論、大学ウェブサイトへの掲載、ニュースレターの発行など大学内でアセスメントについて多くの情報共有がされている。
 - ④ 結果と検証
学習成果アセスメントに関する学内プロセスと結果について検証が行われている。

NILOAでは、以下のような調査報告書も発表している。

- ・ 教員の学習成果アセスメントへの参画・協力に関する調査結果
- ・ 学習成果アセスメントの結果の活用に関する調査結果
- ・ 全米7つの地域ア kreditation 団体に関する調査結果

●質疑応答

調査についてや学習成果などについて質問がなされた。